



高校生のチカラで 豊かな地域を将来につなぐ

山形県川西町 置農食愛プロジェクト





およそ140年前の明治期、「日本奥地紀行」の著作で知られる女性旅行作家のイザベラ・バードは、東京から幾多の峠を越えてたどり着いた米沢盆地を見て「ここはアジアの桃源郷である」と絶賛したという。目にも優しい田園の道すがら直売所をのぞいてみると、都市部では普段見ることのない多種多様な野菜や果物が並び、大地の豊かさを実感する。

米沢盆地の南西部、川西町にある山形県立置賜農業高等学校は、明治28年の創立以来128年を数え、生物生産科、園芸福祉科、食料環境科の3学科を有し、「地域とともに歩む農業高校」として「置農」の愛称で親しまれ、地域づくりや特産品づくりなどの活動でこれまで顕著な功績を残し、全国表彰を数多く受賞している。

今回取材した「置農食愛プロジェクト」は、食料環境科2〜3年生の課題研究グループが設立した学習グループ。ひとり親世帯など経済的に困窮する家族を支援する目的で令和2年にはじまり、現在は多世代連携による地域食堂やフードバンク、食育活動へと発展している取り組みだ。

この日は、食愛プロジェクトの活動の一つとして、高校の野菜圃場を活用した「こども農園」において、じゃがいもや夏野菜の収穫体験と、収穫野菜などを活用したお弁当づくり講習などが行われた。

「今日の活動から、自分で食材を手に入れる自助の精神を学んでほしい」と同会顧問の江本一男先生。17名の親子と10名の高校生が参加し、卒業生もボランティアとして協力する。

開会前に江本先生と生徒たちはじゃがいも掘りの予行演習を行う。葉が枯れてくる頃が収穫適期で、周囲から掘り返して傷つけないようにする。「まずは生徒が掘って、子どもやお



母さんに見せてあげて」と江本先生。

開会は10時。農園を担当する生徒が、司会進行や開会あいさつを立派に務めて収穫体験がはじまる。

「じゃがいもは引張ると採れるよ」と高校生。小学生の男の子は「友だちになった」と嬉しそう。じゃがいもの太い茎を高校生とママと一緒に引き上げる。畑作業をする中で高校生はスコップを貸したり、収穫が終わっていない家族を手伝ったり、自然体で親子の様子を気遣う姿が印象的だ。

収穫作業を終えて校舎に戻ると、調理室では調理担当の生徒と食品環境科のOGにより40人分のカレーとお弁当づくりの準備が進められている。収穫を終えた子どもたちやお母さん方は、調理や盛り付けと一緒に手伝いみんなで会食。この日のお昼ご飯は、伝統野菜を使った「紅大豆カレー」だ。

「めちゃんこうまい！」と喜ぶ子どもたち。お弁当も一緒にいただく。

会の最後に生徒は「今日のために3回試作をしました。カレーとお弁当を合わせて70人分の食事を準備することの大変さが分かりました。」と閉会の挨拶。町内から参加のお母さんは「種まきから収穫、そしてお弁当づくりまで、農業体験や食の提供に汗を流す生徒さんに、心から感謝しています」と語り、「置農は地域の誇り」と目を輝かせた。

このプロジェクトでは、こども農園での栽培体験や自分で食材を手に入れる自助活動支援、収穫野菜を活用した弁当づくり講習や研究、テイクアウト弁当配布、企業やJAの協力を得たフードドライブとフードパントリー活動、高校生が中心となった居場所づくりや食育活動などに取り組んでいる。こうした活動は地域のNPOやスーパ、農家などの支援協



力を受けながら進めている。「高校生が地域に恩返しできる活動を考慮してきた」と江本先生は話す。

活動の成果を、農業高校の全国大会で発表し優勝した生徒もいる。テーマの課題解決のため、そして自分の夢のため、座学だけではなく実際の活動体験をもとにした発表が高く評価されたようだ。

食愛プロジェクトで、現在のリーダーを務める食料環境科3年の泉谷さんは、専門的なことを身に付けたいと思い同校に入ったという。「子どもたちのお菓子作りや、校外での交流などを経験するうちに、他の人と関わることの大切さを学ぶことができた」と話す。卒業後は、農業の実践と各地の食文化を学ぶため進学したいと、これからの学びに意欲的だ。

今日のお弁当の献立を考えた高橋さんは、食料環境科のOGとして活動に協力する。高橋さんは卒業後進学し、その後栄養士として病院で働き、今年地元に戻って来た。「高校生のころ、地域のおばあちゃんから紅大豆の料理を覚えていた。普通の高校ではこんな体験はできない。私も地域の知恵を伝承していきたい」と話す。

江本先生は「農村で田植えや除草に汗を流し、用排水路を管理する人がいて、水は川から海に流れ込み、自然や大地が維持されている。その土地に住む人は、農業や食を通して地域の大切さを、子どもたちに伝えていくことが必要だと思う。ここで学んで活動した教え子たちは毎年確実に増えていく。その中から、地域に誇りを持ち、次世代に継承する生徒が少しでも出てくれば」と願う。

【連絡先】
 置農食愛プロジェクト(山形県立置賜農業高等学校内)
 TEL 0238-42-2101